ISSN 1884-7730

安曇野ちひろ美術館
美術館だより

No.71
2012.7.13

子どものしあわせと平和 －ちひろ＋黒柳徹子－

●2012年7月13日(金)～9月18日(火)

生涯を通じて“子ども”をテーマに描き続けた画家いわさきちひろ。当館館長であり、ユニセフ親善大使として、貧困や暴力、疾病、差別といった苦しみに直面する子どもたちを訪れ、その現状を世界に伝えてきた黒柳徹子。本展では、ともに、戦前から戦後にかけての激動の時代を生き、“子どものしあわせと平和”を願った二人に共通する思いを、ちひろの作品と、黒柳徹子の言葉で紹介します。

悲しい出会い

1974年、自分の誕生日である８月９日の出掛けに開いた新聞で、黒柳はちひろの訃報（享年55歳）を見つけました。当時のことを、黒柳は、「ただ、ただ涙があふれて、新聞の上にポタポタ落ちました。なにか、あかちゃんや子どもたちの味方がいなくなってしまったような気がして……。私はお目にかかったことがない方が亡くなって涙を流したというのは初めてのことでした」と語っています。

偶然にも、当日、坂東玉三郎氏へのプレゼントとして用意していたのはちひろの絵本『あかちゃんのくるひ』（図１）でした。その後、遺族にお悔やみの手紙を送ったことをきっかけに、黒柳とちひろの家族とのつき合いが始まりました。それは、後に、名作『窓ぎわのトットちゃん』を誕生させる出会いとなりました。

『窓ぎわのトットちゃん』の誕生

普通の小学校を１年生で退学になったトットちゃんを温かく迎えてくれた小林宗作校長先生とトモエ学園の思い出を書き残したいと思っていた黒柳は、かねてより、挿絵にはちひろの絵を、と願っていました。ちひろの死後、家族との交流のなかで、残された絵が7000点（1979年当時）近くあると知り、黒柳は『窓ぎわのトットちゃん』の執筆を決意します。

茶色の帽子を被り、少し緊張して微笑む少女（図２）は、初めて母親とトモエ学園へ向かう日の姿に。赤いランドセルを背負って歩く少女は、トモエ学園へ初登校する日の姿に。当時の自分の姿が生き生きと浮かび上がるちひろの絵の数々に、黒柳は「いったい、どうして、ちひろさんは、こんなにも、私の子どものときを見てらしたような絵を描いていらっしゃるんでしょう」と語っています。

平和への願い

現在、世界35カ国で翻訳出版されている『窓ぎわのトットちゃん』。最後は空襲でトモエ学園が焼け落ち、疎開列車に乗って東北へ向かう場面で終わります。

黒柳は子どもの頃に、ちひろは20代のときに第二次世界大戦を経験しました。

戦後、画家となったちひろが、生前最後に完成させた絵本は、反戦の思いを込めて、当時激化していたベトナム戦争のなかで生きる子どもたちを描いた『戦火のなかの子どもたち』（図３）でした。ちひろが制作の最終段階で入れることを強く望んだ場面には、迫る戦火に険しい表情を見せる母親と、あどけない表情で母親に抱かれるあかちゃんが描かれています。黒柳は、「どうぞこういう可愛い子どもたちを戦争などで泣かさないで！傷つけないで！」という強い願いが込められていることも、ちひろの絵が好きな大きな理由の一つだと語っています。

二人の思いが響きあう世界をご覧ください。　（宍倉恵美子）

安曇野ちひろ美術館開館15周年記念
ちひろ美術館コレクション ちひろ美術館が出会った世界と日本の絵本画家たち

●2012年7月13日(金)～9月18日(火)

ちひろ美術館は、世界で初めての絵本の専門美術館として1977年の開館以来、絵本を貴重な文化財と考え、活動してきました。1980年代からは、世界各国の優れた絵本画家の作品、資料の収集、保存、研究、公開に努め、そのコレクション数は35の国と地域、202人の絵本画家による約17,100点に及びます（2012年３月現在）。本展では、安曇野ちひろ美術館開館15周年を記念し、20を超える国、50人余の画家の作品約100点を一堂に会し紹介します。

安曇野ちひろ公園の池と石のオブジェは、チェコの画家クヴィエタ･パツォウスカーによるものです。美術館や公園のコンセプトについて話し合いながら、４年をかけて準備を進め、1997年の開館を前に来日、制作されました。制作スケッチからは、石の断面のとり方をはじめ、パツォウスカーがさまざまに構想を練った様子がうかがえます。鮮やかな配色と大胆なデザインは、安曇野の風景に調和し、来館者を楽しませています（図２、３、４）。

イタリアのキアラ・ラパッチーニが来館したのは、2002年７月。１週間の滞在中に「安曇野での体操」（図５）を制作しました。日本の漆器や寺社からヒントを得たという赤と黒の色使いに、細かく唐草のような模様を描きいれたり、ダイヤ模様や格子を刻み込んだり、イタリア人ならではのおしゃれ心が感じられます。気持ちよさそうに思いきり身体を伸ばすふたりは、緑と光あふれる夏の安曇野だからこそ生まれた作品です。

アジアや中南米、アフリカ諸国の画家との出会いも当館が大切にしていることのひとつです。厳しい制作環境に加え、絵本の出版事情も日本や欧米ほど恵まれず、作品発表の場も限られている画家たちとその作品を保存し、紹介することは、画家のみならず、その国の絵本文化にとっても意義があることでしょう。ヴェネズエラのイレーネ･サヴィーノの『光の主』（図６）は、南米のオノリコ河畔に住む民族に伝わる話です。光に照らされ、静かにゆらぐ水面と木々の葉の複雑な色彩には、熱帯雨林の神秘が感じられます。サヴィーノのように、その地を肌で知る画家が描くことで、私たちは、未知の世界を作品から感じ取り、世界中を旅することができるのです。

美術館コレクションの大きな一角をなす日本の画家の作品も幅広く展示します。戦後の混乱期に活躍した茂田井武、その後の黄金期を牽引した赤羽末吉、瀬川康男、長新太、そして荒井良二や武田美穂といった現在活躍する画家まで、日本の絵本界を代表する画家を紹介します（図７、８）。画家たちの作品からは、世代を超えて読み継がれる日本の豊かな絵本を概観できます。

初めて出会う作品や画家はもちろん、幼い頃読んだ絵本、学校で親しんだ絵本、どこかで出会った絵本や画家に再会するかもしれません。クヴィエタ・パツォウスカーは「私の絵を見ているとき、どうぞ楽しんでください、そして幸せになってください。」（2011年）と言います。これは、どの画家たちにも共通する思いでしょう。ちひろ美術館が出会った絵本画家の魅力あふれる作品をお楽しみください。　（柳川あずさ）

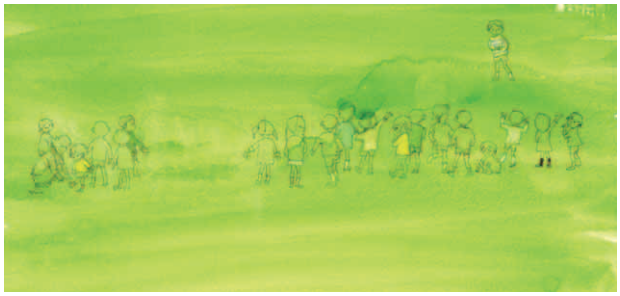
●展示室1・2

図1　あかちゃんのくるひ
『あかちゃんのくるひ』（至光社）より　1969年

図2　こげ茶色の帽子の少女
1970年代前半

蝶とあかちゃん　1971年

図3　焔のなかの母と子　『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）より　1973年



野原にならぶ子どもたち　1969年

●展示室3・4

図1　エリック・カール（アメリカ）
「おんどり」　1985年

いわさきちひろ以外ではじめてコレクションとなった作品。「ちひろ美術館へ愛をこめて」とメッセージが添えられている。

図2　クヴィエタ・パツォウスカー（チェコ）
安曇野ちひろ公園　石のオブジェ　1997年

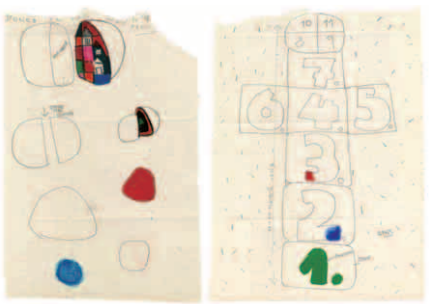


図3、4（右）　パツォウスカーによる公園のための
スケッチ　1994年

図5　キアラ・ラパッチーニ（イタリア）「安曇野での体操」　2002年

図6　イレーネ・サヴィーノ（ヴェネズエラ）
『光の主』より　1994年

図7　赤羽末吉（日本）『スーホの白い馬』（福音館書店）より　1967年

図8　長新太（日本）
『ゴムあたまポンたろう』
（童心社）より　1998年

高橋和真（かずま）　パッケージクラフト展

企画・協力　桜華書林

●2012年7月13日(金)～9月18日(火)

パッケージクラフトという独自の世界を編み出し、活躍中の高橋和真の展示を開催します。

パッケージクラフトとは高橋の造語で、身近にある菓子や飲料などの空き箱＝パッケージを材料に使ったペーパークラフトのことです。可能な限り１箱を使いきる、箱の表面にあるデザインや文字も生かし、文字は途中で切断しない、など自ら設定したいくつかのルールに基づいてつくられたその作品は、造形の美しさや発想のおもしろさで、見るものを魅了します。

紙を使った工作が幼い頃から好きだったという高橋は、大学時代、何かになるかもしれないと捨てずに取っておいた甘酒の箱で、最初の作品をつくります。以来15年間、グループ展や個展に出品し、ワークショップなどを行いながら現在にいたるまで、約300点の作品を生み出してきました。パッケージクラフトの面白さにとりつかれ、新たなジャンルを構築しつつある高橋の作品の発展が更に期待されます。

本展では、彼の作品のなかから、「昆虫」「動物」「ロボット」「乗り物や建物」をテーマに約70点を選んで展示します。

何をつくるか決めてから、箱を見ていくという高橋は、まず、完成したイメージ（たとえばウサギ）をスケッチしながら形を考え、次にパッケージ（またはそのコピー）を分解して試作品に取り掛かり、試行錯誤しながら図面を作成します。本展では、作品制作のプロセスである制作スケッチや図面、試作品なども展示します。

父親が飲んだウィスキーの箱で年賀状に載せる馬を作った高橋は、後日、同じ箱をたくさん入手できたことがきっかけで、干支シリーズを手がけます。その一つであるウサギは、胴体の丸みのリアルさと、金属の甲冑を身につけたような不思議な外観で、印象に残る作品です。

リーガルラビット　2011年

「きっちり図面分けできるデザインの箱はロボットになることが多い」という高橋は、さまざまなユーモラスなロボットも手がけています。代表作の一つであり、作者が最も好きな作品と語る「ポカリロボ」は、文字がロボットの目に変身。パッケージのデザインの変更とともに、少しずつロボたちも外観を変えていきます。

普段注目されることのない、パッケージを斬新な視点で捉えた作品の数々をお楽しみください。　（松方路子）

ポカリロボⅢ　2006年

ポカリロボⅣ　2009年

高橋和真　プロフィール

1973年新潟県上越市に生まれる。東北芸術工科大学デザイン工学部卒業。2000年東北芸術工科大学大院芸術工学研究科修了。著書『親子でつくるパッケージクラフト』（2010）。新潟県上越市在住。

ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」試写会報告

４月25日、松川村のすずの音ホールにて、関係者向けの映画試写会と海南友子（かなともこ）監督によるトークイベントが行われました。当日、参加者から寄せられた感想の一部をご紹介します。

「ちひろさんの自分を貫く生き方に感心させられました。絵本の見方が大きく変わりました。」「自分らしさを求めた生き方がよくわかりました。子どもたちにも見てもらいたいと思いました。」「すでに亡くなった方の全貌を探るドキュメンタリーを制作する試行錯誤の跡を感じました。」「松川村との関わり、ちひろの愛したもの、伝えたかったことが伝わりました。素敵な映画の完成、うれしいです。」「今私は55歳、ちひろさんが亡くなった年です。決してあきらめなかった強い生き方を、私もしていきたいと思いました。」

長野県内での先行上映と一般公開も決定しました。ぜひご来場ください。　（入口あゆみ）

●松本CINEMAセレクト
＜先行上映＞
７月16日(月祝)
①10：30～②13：00～③16：00～
※14：45～15：45で松本猛（ちひろの長男）のトークイベント開催
＜一般公開＞
８月17日(金)～20日(月)
①10：30～②13：00～③16：00～
会期中、海南友子監督来場予定
会場：松本市中央公民館Mウィング６F／TEL.0263－98－4928

●長野ロキシー
＜一般公開＞
７月28日(土)～
＜舞台挨拶＞
７月29日(日)
映画上映　10：40～
松本猛による舞台挨拶　12：35～
会場：長野ロキシー
TEL.026－232－3016

「子どものための工芸展vol.2」関連イベント「親子のためのワークショップ ちいさな箒（ほうき）づくり」

松本市を中心に行われる工芸展「工芸の五月2012」にあわせて、当館では昨年に引き続き「子どものための工芸展vol.2」を開催しました。

５月20日（日）には、出展作家、吉田慎司さんによる子どもにも使いやすい卓上用の箒づくりのワークショップを行いました。吉田さんの箒は、国産のホウキモロコシを使い、藍や茜など草木染の糸で編みこまれています。穂先がやわらかく、やさしい印象が特長です。集まった参加者は、箒をどうやってつくるか興味津々。床に座って足に糸を巻きつけ、引っ張りながら柄の部分を編みこみます。ひと目ずつ時間をかけて丁寧に編みこむ人や何度も糸をほどきなおしてチャレンジする子、それぞれに集中した静かな時間が流れていきます。最後に箒がきれいに広がるよう飾り編みをほどこして完成しました。「無心でできて楽しかった」「自然の素材感がよかった」「力加減が難しかったけれど、自分で編めたことがうれしい」「きれいな格子にならずやり直しました。母は手が痛くなるほどきつくなるように頑張っていました。ひとつひとつ丁寧に箒をつくっている先生はすごい。大変さがわかりました」という参加者からの感想も。世界にひとつしかない箒を、満面の笑顔と一緒に持ち帰りました。

（児玉文嘉）

ちひろを訪ねる旅㊻

1950年頃　神田すずらん通り界隈

飲食店の並ぶ路地　1948年
敗戦から3年。さまざまな店が密集し、人々が行き交う路地の風景は、往時、ちひろが暮らしていた神田神保町と思われます。

神田神保町、専大前交差点から南へ1ブロック下った角、洒落た佇まいのビルが、鰻屋の今荘です。

戦後、いわさきちひろが疎開先の信州松本から単身で上京し下宿していた叔母・泰の嫁ぎ先、中村屋箔押し店は、今荘を西に入ったところ。次に下宿したブリキ屋は、さらに1ブロック南を東に入ったところにありました。

画家を志し、人民新聞の記者として働きながら、絵の勉強をしていた当時のちひろは、いつも紙と鉛筆を手に、スケッチに励んでいました。残された作品は、電車のなかでも、美容院や外食券食堂でも、神保町の商店街や本屋でも、あらゆる場所でちひろが、文字どおり活写とも言える勢いで描き続けていたことを伝えています。

とりわけ子どもは、興味を引く対象でした。街角で遊んでいる近所の子どもに声を掛け、下宿でモデルになってもらってから、飴玉を持たせ、もといた場所に送り届けたというエピソードも残っています。今荘の姉妹も、かつて、モデルになったことがありました。

母親の仕事の関係でモデルとなり、ブリキ屋2階の下宿に通った辻晶子、松山雅子、山野朝子の三姉妹は、当時のちひろの印象を、子ども心に「素敵な女性」で、戦後の困窮の時代にも真っ黒な髪をおかっぱにした「綺麗な大人」と記憶しています。

画材がいっぱいの下宿部屋で、好奇心旺盛にあれこれ触ってみる少女たちに、ちひろは決して、「ダメ」という言葉を口にすることはなかったと、ドキュメンタリー映画のなかでも語っています。

「バレエをやりたいとか、絵を描きたいとか、もっとお勉強をしたいとか、そういう事を思った時に、やりたいことができる世の中にきっとなるのよ」。絵を描く合間にも、ちひろは彼女たちに繰り返し語ったといいます。すべての人々が平等で、個性が大切にされる平和な世の中。幼い姉妹は、ちひろが穏やかに語る言葉のなかに、高い理想と未来への夢を見出していました。　（竹迫祐子）

ひとことふたことみこと

4月3日（火）
ちひろさんが絵を学びに東京に出たのが27歳。今同じ27歳の私にも、やる気があれば歳なんて関係ないとわからせてくれました。ちょうど今、人生の壁にぶちあたっているところでした。殻から抜け出そうと思い、静岡から来ましたが、来てよかった。また踏み出せそうです。　（MIZUHO）

4月17日（火）
「ちょっとちひろさんとこへ行って来る！　深呼吸してくるね！」と友人に言って（友曰く、「そんな所があっていいね……」）一年に一度ですが、大阪から来ています。ここに居るだけで、この場に身を置くだけで、心があったかくなり、涙があふれてきます。文字通り「心のふるさと」です。（大阪50代Y.K）

4月29日（日）
名古屋から来ました。非常に心が洗われる思いでいっぱいです。来てよかった！瀬川さんの絵もよかった。彼の線と点の表現のすばらしさを知りました。　（幸＆歩）

4月30日（月）
『戦火のなかの子どもたち』を読んで、私はとっても感動しました。特に「おなかもすいてきたでしょうに」というところの絵に心がぎゅっとしめつけられる思いになりました。そしてあらためて戦争について思い返すことができました。私はこの本をずっと取っておき、未来へ残していきたいと思います。

5月3日（木）
「松川村の宝もの」私はずっと松川村で育ってきました。今は東京で一人暮らしをしていますが、この村に帰ってくると必ずちひろ美術館に来ます。私の大好きな場所。ふっと一息つけて、パワーをもらえる場所。空の青さ、緑の青さ、鳥の声、時の流れ、すべてを感じさせてくれるこの場所が大好きです。そしてここでの時間が、今日もまた私の宝ものになります。
（YamanakaMiho　夢は松川村の観光大使！　26歳）

5月13日（日）
今回で4回目の来館になります。歳を重ねるごとに、思いも募ります。昨日からすばらしい天気に恵まれ、今日、現在を最高の幸せと感じています。横浜から一人ではもう来ることも難しいと、体いっぱいちひろさんを感じて帰ります。できれば東京へはまた参りたいと思います。　（82歳老女）

美術館日記

4月11日（水）
休館日を利用し、北アルプス広域消防署から消防員の方を招いて、防災訓練を実施。来館者役とスタッフ役に分かれての避難誘導訓練や、水消火器を使った消火訓練を行い、AEDの使用方法を学ぶ。スタッフから多くの熱心な質問が出され、いざというときの行動を確認するよい機会となった。

4月21日（土）
英語、韓国語、簡体字、繁体字の4言語で公開していた当館の外国語ウェブサイトに、この春ロシア語が加わった。早速、「ロシア語のウェブサイトがある美術館は、日本でも初めてでは？」「ロシアのちひろファンがよろこんでいますよ！」とロシア語通訳・翻訳者の方から連絡が入る。より多くの方に、ちひろを知っていただくきっかけになればと願う。

5月6日（日）
兵庫県立美術館の「いわさきちひろ展」最終日。関西では、2007年秋以来の展覧会とあって、58,000名を超える来場者を迎えた。教科書や紙芝居、絵雑誌などに掲載された作品の前で立ち止まる方も多く、来場者からは、「はるか昔、小学生のときの国語の教科書にあった絵が、今でも心に残っていました。やはり、ちひろさんの絵だったとわかり、感動しました！」と感想が寄せられた。

5月13日（日）
松川村リンリンパークを中心に開催された、第1回安曇野まつかわ五月の風音楽祭。近隣の安曇野市、松本市、白馬村からも参加があり、のべ400人がステージにあがる大イベントとなった。ちひろ公園でもミニコンサートが行われ、五月晴れの空のもと、芝生に座ってアルプホルンの音色や合唱の歌声を楽しむ来館者の姿が見られた。

5月30日（水）
2010年、台湾国立図書館で開催されたちひろ展に協力いただき、交流を続けている、絵本研究家で国立台東大学副教授の游珮芸（ユウ ペイユン）先生が来館。5月6日から3週間あまり、安曇野を拠点に、いわさきちひろの研究をするとともに、絵本美術館の運営に関する研修を受けたり、原語で楽しむおはなしの会で朗読をしたりと、精力的に活動された。安曇野での最終日には、絵本を見せながら、「台湾の絵本」についてスタッフへレクチャー。今後、台湾との交流がより深まることに、期待がふくらむ。

INFORMATION

●次回展示予定　2012年9月21日(金)～11月30日(金)

〈展示室1〉ちひろ・和の心

古来より日本人は繊細な感覚で、花鳥風月といった美しい自然を表現してきました。ちひろの四季折々の草花や風物を描いた作品、『万葉のうた』の原画や書などを展示し、ちひろの作品に息づく日本的な美意識を探ります。

いわさきちひろ　和服の少女　1968年

〈展示室4〉企画展　日中国交正常化40周年記念
中国の絵本画家展

近年、さまざまな分野で発展を続ける中国では、絵本の世界でも優れた作品が出版されています。本展では、日中国交正常化40周年を記念し、長く中国の絵本界で活躍する于大武(ユー ダー ウー)や武建華(ウー チエン ホア)をはじめ、若手画家の作品もあわせて展示し、中国の現代絵本の魅力を紹介します。

武建華（中国）『天下一の弓使い』より　1994年

〈展示室3〉ちひろ美術館コレクション　絵本と訪ねる、世界の家

家族が集い、生活を営む場である家には、その土地の文化や人々の暮らし、自然環境が映し出されます。国や地域によって千差万別な世界各地の家、空想の家、そして動物の家……。“家”をテーマに、世界の絵本画家の作品をご覧ください。

クラウディア・レニャッツィ（アルゼンチン）
『わたしの家』より　2001年

〈展示室5〉絵本の歴史

安曇野ちひろ美術館　イベント予定

各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。
詳細･最新情報はホームページからもご覧いただけます。　http://www.chihiro.jp/　TEL. 0261-62-0772　FAX 0261-62-0774

●高橋和真パッケージクラフトワークショップ

○日　時：７月15日(日)・９月９日(日)　10：00～12：00
○参加費：材料費のみ（入館料別）　○講師：高橋和真　※要申し込み

●作家によるギャラリートーク

７月14日(土)・９月９日(日)　いずれも14：30～15：00
※参加自由（入館料別）

●夏休み体験コーナー　ちひろの水彩技法体験！

地元・松川中学校のボランティアによるサポートを受け、子どもから大人まで気軽に楽しんでいただけるワークショップです。

○日　時：７月27日(金)～８月18日(土)
　　１日４回開催
　　(10：00～、11：00～、14：00～、15：00～)
○会　場：安曇野ちひろ美術館　多目的ギャラリー
○参加費：材料費のみ（入館料別）　○定員：各回20名

●中学生ボランティアによる
高橋和真パッケージクラフト展作品解説ツアー

○日　時：７月27日(金)～８月18日(土)のうち数日
　　13:00～13:30　○参加費：無料(入館料別)　○定員：各回20名

●安曇野まつかわサマースクール
めくるめく！安曇野カルタで　あ･い･う･え･お

松川村、武蔵野美術大学、安曇野ちひろ美術館の３者による夏休み恒例のサマースクールです。10周年の今回は、松川村の「伝統食」をテーマにカルタの制作を行います。

○日　時：８月３日(金)10：00～16：00
○会　場：松川村すずの音ホール、松川村各所
○対　象：小学生、中学生（大人も参加可）
○定　員：40名
○参加費：500円（松川村民400円）
○申し込み：安曇野ちひろ美術館受付、ＨＰ、電話、ＦＡＸにて。

●松川中学図書委員による絵本の読み聞かせ

○日　時：８月５日(日)、８日(水)、９日(木)、12日(日)
　　14：00～14：30／15：30～16：00
○会　場：安曇野ちひろ美術館　絵本の部屋　※参加自由（入館料別）

●夕暮れミュージアム　～夜の美術館を楽しもう～

年に一度、夜の美術館を楽しめるスペシャルデー。浴衣で来館した方には、ドリンクをサービスします。
日　時：８月25日(土)21：00まで開館延長。

イベント①子どものしあわせと平和　－ちひろ＋黒柳徹子－　展示関連イベント
ピアニカ王子のマジックと音楽で奏でる　いのちのコンサート

音楽とマジックという異色の組み合わせで活動する「ピアニカ王子」こと大友剛さんによる親子で楽しめるコンサートを開催します。
○時　間：17：00～18：00　○会　場：安曇野ちひろ美術館　多目的ギャラリー　○定　員：80名
○参加費：500円（入館料別）※子ども、大人一律の料金
○申し込み：７月１日より、安曇野ちひろ美術館受付、ＨＰ、電話にて

イベント②安曇野まほらランタンによるイルミネーション
○時　間：18：00～21：00　※雨天中止　○会　場：安曇野ちひろ公園
イベント③松川村観光協会主催　すずむし捕り
○時　間：19：00～20：00※雨天時翌日に順延
○会　場：安曇野ちひろ公園　○参加費：無料　申し込み不要
※詳細は、松川村観光協会TEL. 0261-62-6930までお問い合わせください。
イベント④夏の夜のおはなしの会　～ちょっと怖い！絵本の読み聞かせ～
○時　間：19：30～20：00
○会　場：安曇野ちひろ美術館　絵本の部屋、または中庭

●おはなしの会

毎月第２・４土曜日11：00～
参加自由、入館料のみ。

●ギャラリートーク

毎月第２・４土曜日
14：00～ちひろ展
14：30～世界の絵本画家展または企画展
参加自由、入館料のみ。

CONTENTS

〈展示紹介〉子どものしあわせと平和　－ちひろ＋黒柳徹子－／安曇野ちひろ美術館開館15周年記念　ちひろ美術館コレクション
ちひろ美術館が出会った世界と日本の絵本画家たち…❷❸
〈企画展紹介〉高橋和真　パッケージクラフト展　〈活動報告〉ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」
試写会報告／「子どものための工芸展vol.2」関連イベント「親子のためのワークショップ　ちいさな箒づくり」…❹
ちひろを訪ねる旅㊻／ひとことふたことみこと／美術館日記…❺

美術館だより　No.71　発行2012年7月13日

安曇野ちひろ美術館
〒399-8501　長野県北安曇郡松川村西原3358-24　テレホンガイド0261-62-0777　TEL.0261-62-0772　Fax 0261-62-0774
http://www.chihiro.jp/　E-mail:chihiroa@seagreen.ocn.ne.jp